

今月のコラム

「SDGs」におけるガーデン業界の役割

NPO法人ガーデンを考える会
会長代行 藤田 茂氏

緑空間の拡大で、ヒートアイランド現象の緩和を

昨年は、暴風、豪雨、春の天候不順、冬の雪不足などが起き、1昨年は記録的猛暑が続き、今年の東京オリンピックのマラソンは札幌で行われることになるなど、地球温暖化の影響といわれる現象が多発しました。このような異常気象は、異常ではなく、気象状況が変わったといわれています。

また、日本の都市のヒートアイランド現象は、世界のトップクラスといわれています。その元凶は、都市に緑とそれを支える土壌面がなくなったことが最大要因です。気温を上昇させる熱エネルギーは、顕熱(空気伝導熱)で長波放射(多くは赤外線)ではないことが判明しています。この顕熱は、夏季の昼間において、全顕熱の80%が地面と建築物表面から発生し、残りの20%が人工排熱であり、その中の冷房エネルギー起源の熱は5%にすぎません。人の活動を0(ゼロ)にすることなどありえないので、ヒートアイランド現象を緩和するには、都市に緑とそれを支える土壌面を増やすことが最も効果的です。ヒートアイランド現象緩和は、地球温暖化抑制にも大きく寄与しますので、緑空間の拡大は急務といえます。



ガーデン業界が、持続可能な開発目標と関連できる行為

昨今、持続可能な開発目標「SDGs」(Sustainable Development Goals)への取り組みが多方面で行われています。SDGsは貧困に終止符を打ち、地球を保護し、全ての人々が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指し、普遍的な行動を呼びかけて17の目標を掲げています。ガーデン業界においても、取り組まなければならない課題だと思います。

屋上や壁面を含めた緑化面を増やし、街路樹などの樹冠の拡大

その目標の中に「13. 気候変動に具体的な対策を」があり、これに関連する行為として、屋上や壁面を含めた緑化面を増やし、街路樹などの樹冠を拡大することは、緑化業界の使命でもあります。

「11. 住み続けられるまちづくりを」とも関連し、緑のある安心して暮らせる豊かな環境づくりにもつながってきます。さらに「15. 陸の豊かさを守ろう」においては、緑を基本とする多様な生物が生きられる環境づくりが求められてきます。

植物と心身の健康

「3. 全ての人に健康と福祉を」に対しては、佐分利応貴氏の「緑は心のサプリメント」の言葉や、豊田正博氏の「室内植物があなたを救う」にあるように、植物は心身ともに健康を維持する大きな効果が期待され、職場のストレスチェック対策、園芸療法にも係わってきます。

使い捨ての緑から、育てる緑へ

「8. 働きがいも経済成長も」においては、シアトルのアマゾン本社のジャングルオフィスや、竹中工務店の優秀な人材確保のための社内環境整備(屋内緑化)がよい例です。今後、この方向で室内緑化(緑に囲まれた職場環境)が増加する気配が見られます。この流れにおいては「12. つくる責任つかう責任」に関連し使い捨ての緑から、育てる緑への流れも見えてきます。



カエデ
kaede

緑を通した生涯学習の場

「4. 質の高い教育をみんなに」においては、昨年設立された「子どもたちと地域の未来を考える花と緑のまちづくり全国首長会」及びその支援団体「花と緑の美しいまちづくり支援団体連絡協議会」(当会が呼びかけ)の活動においては、子どもたちだけでなく、緑を通した生涯学習の場を構築することも考えられます。

これらSDGsに関連する事業に対しては、「ガーデンを考える会」のメンバーが主体的に活動することが求められていると思いますし、動かなければならないといえます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「持続可能な開発目標 (SDGs) とは」

持続可能な開発目標 (SDGs)、通称「グローバル・ゴールズ」は、貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指す普遍的な行動を呼びかけています。

これら17の目標は、気候変動や経済的不平等、イノベーション、持続可能な消費、平和と正義などの新たな分野を優先課題として盛り込んでいます。

※国連開発計画 (UNDP) 駐日代表事務所HPより一部抜粋

お知らせ

「第11回エクステリア&ガーデンフェア名古屋」に出展。 参加会員企業様を募集！！

ガーデンを考える会は、4月10日(金)～11日(土)にポートメッセなごやにて開催される「エクステリア&ガーデンフェア名古屋」に出展します。一緒に参加する会員企業様を募集します。

エクステリア&ガーデンでは、日々の暮らしをより豊かに、より楽しく過ごせるような花や緑、庭のある暮らしに関する新しいマーケットの情報収集、情報提供、未来志向の園芸PRなどを実験的に出展したい会員企業様に おすすめです。詳細はこれからになりますが、興味のある方は事務局までお問い合わせください。



昨年出展の様子



カエデ
kaede

子どもたちと地域の未来を考える 花と緑のまちづくり

花と緑のまちづくり全国首長会 全国109首長が加入し設立さる

ガーデンを考える会では、2018年度より「花と緑のまちづくり推進プロジェクト」を立ち上げ、「子どもたちと地域の未来を考える花と緑のまちづくり全国首長会」設立を支援してきましたが11月14日、全国首長会の設立総会が開催されました。設立総会と設立に至るまでの経緯を報告します。なお本報告は雑誌「グリーン情報」で掲載された内容が中心になっています。

(文責 事務局 山川)

初代会長は谷藤裕明盛岡市長、 事務局長に桂川孝裕亀岡市長

子どもたちと地域の未来を考える花と緑のまちづくり全国首長会(略称：花と緑のまちづくり全国首長会)は、2019年11月14日16時より、都内、都道府県会館において全国の市町村区など60の自治体が出席して設立総会を開催した。

総会ではまず発起人代表の谷藤裕明盛岡市長より挨拶がありその中で「109もの自治体首長にご賛同いただき、盛大に設立総会を開催することができました。花と緑のまちづくりという、思いを同じくする自治体が互いに連携し、花と緑あふれる豊かで魅力的な地域と文化の創造、快適な都市空間の形成、地域社会の活性化を通して持続可能な地域社会を実現する輪を全国で展開するべく本日、全国首長会の設立総会を開催させていただきました。今後、国や民間団体との連携を深め、よりみりのりのある活動を展開できればと考えており、みなさまの積極的な関りをお願いします」旨、述べた。



花と緑のまちづくり全国首長会設立総会の会場



初代会長に就任した谷藤盛岡市長



子どもたちと地域の未来を考える 花と緑のまちづくり

次回総会は全国都市緑化ひろしまフェア

来賓祝辞では、国交省、長井俊彦審議官より「国交省も花や緑のあるまちづくりを進めており、7月には多様な連携のもとに自然環境の機能を活用するグリーンインフラ推進戦略を取りまとめ、またグリーンツーリズムも新たに進めています。都市緑化を推進する全国都市緑化フェアも全国各地で開催、来年は広島で開かれることになっており、全国首長会と連携が広がっていくことを期待しています」旨、挨拶した。

総会は谷藤盛岡市長の司会で進められ、役員は会長に谷藤裕明盛岡市長、副会長に久住時男見附市長、原口和久鴻巣市長、久保田后子宇部市長、事務局長には桂川孝裕亀岡市長が選任された。顧問には、進士八十八氏、白砂伸夫氏、涌井史郎氏、石原和幸氏が就任した。

2019年度事業計画案、2020年度事業計画・予算案は原案どおり承認。総会後の連絡事項では、2020年度総会を緑化フェア開催中の広島メイン会場で開催、及び国会議員に対して応援を依頼することになった。

基調講演では「より豊かな経験を子どもたちに保証する環境づくり」と題して、東京大学大学院教育学研究科長の秋田喜代美教育学部長教授より講演があった。

◎「子どもたちと地域の未来を考える花と緑のまちづくり全国首長会」役員

役職	都道府県名	自治体名	首長
会長	岩手県	盛岡市	谷藤 裕明
副会長	新潟県	見附市	久住 時男
	埼玉県	鴻巣市	原口 和久
	山口県	宇部市	久保田 后子
理事	神奈川県	横浜市	林 文子
	石川県	小松市	和田 慎司
	静岡県	三島市	豊岡 武士
	兵庫県	淡路市	門 康彦
	神奈川県	大和市	大木 哲
	北海道	中札内村	森田 匡彦
	北海道	東神楽町	山本 進
	茨城県	大洗町	小谷 隆亮
	岐阜県	池田町	岡崎 和夫
	奈良県	田原本町	森 章浩
	徳島県	板野町	玉井 孝治
	宮崎県	新富町	小嶋 崇嗣
佐賀県	みやき町	未安 伸之	
事務局長	京都府	亀岡市	桂川 孝裕



子どもたちと地域の未来を考える 花と緑のまちづくり

2018年9月、福岡・九州大学箱崎キャンパスで 「花と緑のまちづくり全国首長会」福岡宣言

<2018年11月現在>

全国の市町村でガーデンシティや花と緑のまちづくりが進められているが、2018年9月9日、花と緑のまちづくり全国首長会が発足した。

9月9日～10日に九州大学箱崎キャンパスで開催された「全国まちづくり会議in福岡」の中で、9日10時より「花と緑のまちづくり推進フォーラム」が開催され、その中で花と緑のまちづくりを積極的に進める京都府亀岡市の桂川市長による「花と緑のまちづくり・福岡宣言」が採択され、発足したもの。当日の発起人市長は、亀岡市、盛岡市、三島市、見附市の4首長。

フォーラムは、基調講演をBISES元編集長の八木波奈子氏が「花と緑のまちづくり～コミュニティーガーデン～」と題し、花と緑のまちづくりが、いかに経済効果も含め重要であるか、実例を示して講演した。花と緑のまちづくりに積極的に取り組む、盛岡市、亀岡市、福岡市もどのように取り組んでいるか講演したほか、北海道で取り組む内倉真由美氏、福岡で取り組む石井康子氏など、全国から花と緑のまちづくりに積極的に取り組む関係者が集まり、講演や情報交換を行った。

フォーラム最後には、花と緑のまちづくり全国首長会の発起人を代表して桂川亀岡市長が「花と緑のまちづくり・福岡宣言」を行い、第1部を終了した。

午後からは、分科会として会場を福岡グロネクストに移し、第2部「花と緑のまちづくり大名フォーラム」を開催した。講師に加え参加者も交えて、今後の取り組みや課題、期待される効果などについて忌憚のない話し合いがされた。第2部終了後は交流会が開催された。



花と緑のまちづくりフォーラムに参集した全メンバー

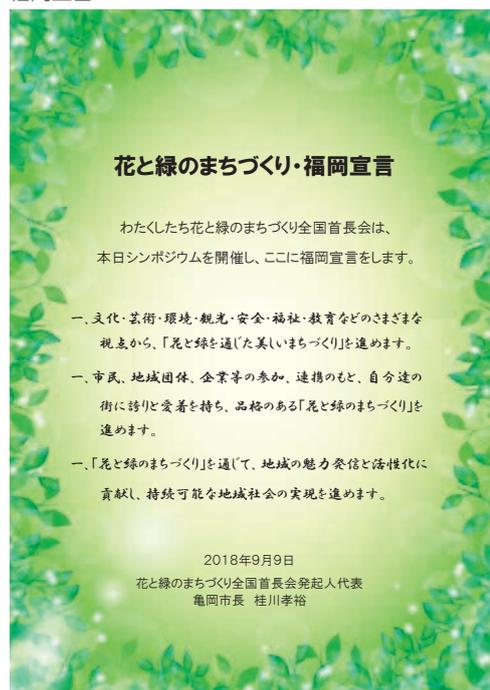
花と緑のまちづくり推進プロジェクトの体制

花と緑のまちづくり
全国首長会議
「花緑サミット」(仮称)

市民・企業等による
「花と緑の美しいまちづくり
団体連絡協議会」(仮称)

関連企業等による支援組織
「花と緑のまちづくり
活動支援新組織」(仮称)
(ガーデンを考える会)

福岡宣言



花と緑のまちづくり・福岡宣言

わたしたち花と緑のまちづくり全国首長会は、
本日シンポジウムを開催し、ここに福岡宣言をします。

- 一、文化・芸術・環境・観光・安全・福祉・教育などのさまざまな視点から、「花と緑を通じた美しいまちづくり」を進めます。
- 一、市民、地域団体、企業等の参加、連携のもと、自分達の街に誇りと愛着を持ち、品格のある「花と緑のまちづくり」を進めます。
- 一、「花と緑のまちづくり」を通じて、地域の魅力発信と活性化に貢献し、持続可能な地域社会の実現を進めます。

2018年9月9日
花と緑のまちづくり全国首長会発起人代表
亀岡市長 桂川孝裕



 子どもたちと地域の未来を考える 花と緑のまちづくり

全国首長会発起人会、6月5日に松本で開催

<2019年4月現在>

<首長会の動き>

2018年9月9日福岡フォーラムでの「花と緑のまちづくり福岡宣言」を受け、全国首長会発起人会(事務局・京都府亀岡市)では、19年6月に発起人会(仮称)を開催すべく活動を開始した。9月フォーラム開催時に発起人となったのは桂川孝裕亀岡市長、谷藤裕明盛岡市長、豊岡武士三島市長、久住時男見附市長の4市長であったが、まず全国の10市の市長に発起人として賛同してもらい、10名の発起人市長から全国の市町村長に呼びかけていくことにしている。全国的な運動にするため、発起人には、北は北海道から南は九州まで、花と緑のまちづくりに積極的に取り組んでいる市長に依頼しており、19年に入り新たに原口和久鴻巣市長が発起人に加わった。ほかにも各地の市長に呼びかけをしており、発起人により全国の市町村長に呼びかけていく予定である。

全国首長会は、年に1回の全体会議を持つことにしており、全国都市緑化フェアと連動しての開催を目指している。2019年は、第36回全国都市緑化フェア「信州花フェスタ2019」が4月25日から6月16日まで長野県松本市・塩尻市をメイン会場、安曇野市・大町市をサブ会場として開催されるが、開催中の6月に開催地での開催を目指している。

発起人会の内容は、発起人が決まった段階で詳細を詰めていきたいとしているが、発起人となった市町村それぞれの花と緑のまちづくりの取り組みを発表してもらってはどうかというテーマも出ているようだ。

支援組織<ガーデンを考える会の動き>

ガーデンを考える会(上野和治会長)は、1996年11月に設立。2018年度より「花と緑のまちづくり推進プロジェクト」を活動の中心に置いているNPO法人。全国首長会を直接サポートするのではなく、首長会に参加している市町村の市民団体、ボランティア団体をプロ集団として、技術・情報などの側面から支援する。庭に関わりのある業種、造園、エクステリア設計施工、外構、園芸用品メーカー、植木・植物生産者、園芸用品メーカー、流通業者などで構成している同会では、支援活動は全国各地の市町村へ行き、地元地域での支援会員が欠かせないことから、趣旨に賛同する全国の関係団体・企業に参加を呼び掛けている。



子どもたちと地域の未来を考える 花と緑のまちづくり

全国首長会発起人会開催さる、 11月に設立総会開催

< 2019年6月現在 >

< 全国首長会の動き >

全国首長会設立発起人会が6月5日13時より、盛岡市、見附市、小松市、横浜市、鴻巣市、三島市、宇部市、亀岡市の市長、副市長などが出席し松本市にあるサンプルアルウィン会議室で開かれた。

会議は亀岡市の市長公室山内室長の司会で進められ、最初に出席市長などから各市の取り組みについて紹介を兼ねた挨拶があった。審議では、「規約」「今後の事業計画」「設立趣意書」について審議されたが、規約では、設立総会までの事務局を亀岡市に置くことが決まった。

今後の事業計画については、①設立発起人市から全国各市区町村への参画呼びかけ、②設立総会・フォーラム等の開催(11月13日・14日全国市長会にあわせて)、③情報交換・調査研究(会員同士の情報交換、先進事例等の紹介、全国の先進施策等の調査研究)が承認された。また、「設立宣言」ともいふべき、設立趣意書も承認され、今後、発起人9市長の名前で全国に呼び掛けていくことになった。

議事終了後には、長井俊彦国土交通大臣官房審議官より「緑と花による活力ある美しいまちづくり」をテーマに講演があった。講演では最近の動きとして全国の6カ所を登録した「ガーデンツーリズム」の推進や、今後はグリーンインフラを充実するのが施策の方向性としたうえで、「全国首長会としっかり連携をとらせていただきたい」とした。

閉会後は、信州花フェスタ2019会場を見学した。

◎全国首長会発起人会参加市長(申込み順)

- ① 京都府亀岡市 桂川 孝裕 市長
- ② 岩手県盛岡市 谷藤 裕明 市長
- ③ 静岡県三島市 豊岡 武士 市長
- ④ 新潟県見附市 久住 時男 市長
- ⑤ 埼玉県鴻巣市 原口 和久 市長
- ⑥ 神奈川県横浜市 林 文子 市長
- ⑦ 石川県小松市 和田 慎司 市長
- ⑧ 兵庫県淡路市 門 康彦 市長
- ⑨ 山口県宇部市 久保田后子 市長



信州フェア「ハレの広場」前で記念撮影する発起人会の各氏



設立発起人会議の会場



子どもたちと地域の未来を考える 花と緑のまちづくり

支援組織＜ガーデンを考える会の動き＞

ガーデンを考える会では、6月5日に松本市で開かれた花と緑のまちづくり全国首長会発起人会に、理事を中心に10名でオブザーバーとして参加。全国首長会の動きを確認し、その後のミーティングで積極的に支援していくことを確認した。

翌6日は亀岡市でガーデンを考える会通常総会を開催、令和元年事業で花と緑のまちづくりを主たる事業としていくことを確認するとともに、そのために新たに石原憲一郎氏、今西良共氏、北原恒一氏を顧問に招いた。



総会後の懇親会で桂川亀岡市長とともに記念撮影

全国首長会、11月14日に東京で設立総会

<2019年9月現在>

全国首長会設立発起人会が6月5日に松本市で開かれた後、7月に入り全国首長会発起人9首長より、全国の1741市町村区長に対して参加の呼びかけを行ったところ大きな反響。北は北海道から南は沖縄まで107市町村区長が参加を表明した(9月20日現在)。

設立総会は11月14日(木)午後4時より、都道府県会館(東京都千代田区)で開かれる。
以下、設立趣意書である。

「子どもたちと地域の未来を考える花と緑のまちづくり全国首長会」設立趣意書

古来より花と緑は、私たちの暮らしに潤いと安らぎを与え、社会に憩いと賑わいを広げるものとして、生活や文化の中に息づき大切にされてきました。近年の急速な都市化による生活様式や価値観の多様化は、利便性と引き換えに自然を遠ざけ、また社会構造の変化に伴い人間関係の希薄化、地域コミュニティが衰退する中、誰もがゆとりや安らぎ、豊かさを実感できるまちを求めています。今こそ花と緑によって、まちに彩りと潤いを与え、人が集い、人と人がつながり、心豊かな地域社会を創出する「花と緑のまちづくり」の取組が重要となっています。

現代を生きる私たちは、先人たちにより残されてきた自然環境を大切に守り、育てていく必要があるとともに、子どもたちの心身の健やかな成長と持続可能な地域社会の未来のため、花と緑の豊かな環境を引き継いで



子どもたちと地域の未来を考える 花と緑のまちづくり

いかなければなりません。ここに花と緑のまちづくりに積極的に取り組む市区町村が、互いに連携し、花と緑にあふれる豊かで魅力的な地域と文化の創造、快適な都市空間の形成、地域社会の活性化をとおして、持続可能な社会を実現する輪を全国に展開するべく「子どもたちと地域の未来を考える花と緑のまちづくり全国首長会」を設立することとなりました。

つきましては、ぜひこの取組にご賛同賜り、ご参画いただきますようお願い申し上げます。

令和元年七月吉日

◎子どもたちと地域の未来を考える花と緑のまちづくり全国首長会

参加市町村区(順不同、9月17日現在)

	都道府県名	自治体名		都道府県名	自治体名		都道府県名	自治体名
1	北海道	網走市	37	埼玉県	小鹿野町	73	兵庫県	芦屋市
2	北海道	釧路市	38	埼玉県	伊奈町	74	兵庫県	南あわじ市
3	北海道	東神楽町	39	東京都	江戸川区	75	和歌山県	海南市
4	北海道	北竜町	40	東京都	台東区	76	和歌山県	高野町
5	北海道	中札内村	41	東京都	狛江市	77	岡山県	美作市
6	青森県	弘前市	42	神奈川県	大和市	78	岡山県	総社市
7	青森県	平内町	43	新潟県	魚沼市	79	広島県	江田島市
8	青森県	五戸町	44	富山県	魚津市	80	山口県	萩市
9	青森県	南部町	45	山梨県	甲斐市	81	島根県	雲南市
10	青森県	六ヶ所村	46	山梨県	忍野村	82	徳島県	藍住町
11	岩手県	宮古市	47	岐阜県	池田町	83	徳島県	神山町
12	岩手県	花巻市	48	岐阜県	輪之内町	84	徳島県	板野町
13	岩手県	矢巾町	49	岐阜県	大野町	85	徳島県	佐那河内村
14	岩手県	田野畑村	50	静岡県	湖西市	86	高知県	四万十町
15	宮城県	柴田町	51	静岡県	沼津市	87	福岡県	福岡市
16	秋田県	鹿角市	52	静岡県	南伊豆町	88	福岡県	田川市
17	山形県	長井市	53	愛知県	名古屋市	89	福岡県	福津市
18	福島県	喜多方市	54	三重県	名張市	90	大分県	宇佐市
19	福島県	相馬市	55	三重県	鈴鹿市	91	大分県	佐伯市
20	福島県	平田村	56	三重県	伊勢市	92	佐賀県	神埼市
21	福島県	玉川村	57	三重県	亀山市	93	佐賀県	有田町
22	茨城県	大洗町	58	滋賀県	草津市	94	佐賀県	みやき町
23	茨城県	茨城町	59	京都府	大山崎町	95	熊本県	八代市
24	栃木県	小山市	60	京都府	京丹波町	96	熊本県	熊本市
25	栃木県	栃木市	61	大阪府	豊能町	97	宮崎県	新富町
26	群馬県	沼田市	62	大阪府	和泉市	98	沖縄県	宮古島市
27	群馬県	安中市	63	大阪府	東大阪市	(発起人市)		
28	群馬県	中之条町	64	大阪府	泉佐野市	99	岩手県	盛岡市
29	埼玉県	朝霞市	65	大阪府	河南町	100	新潟県	見附市
30	埼玉県	久喜市	66	大阪府	岬町	101	石川県	小松市
31	埼玉県	東松山市	67	奈良県	田原本町	102	神奈川県	横浜市
32	埼玉県	桶川市	68	兵庫県	加西市	103	埼玉県	鴻巣市
33	埼玉県	北本市	69	兵庫県	明石市	104	静岡県	三島市
34	埼玉県	幸手市	70	兵庫県	三田市	105	兵庫県	淡路市
35	埼玉県	本庄市	71	兵庫県	洲本市	106	山口県	宇部市
36	埼玉県	吉見町	72	兵庫県	朝来市	107	京都府	亀岡市



子どもたちと地域の未来を考える 花と緑のまちづくり

全国首長会支援組織結成を呼び掛け

12月14日に10団体に説明会

<2019年12月現在>

ガーデンを考える会では、全国首長会を支援する支援組織の結成を図っているが、2019年11月に、国土交通省、農林水産省関係の諸団体に対して下記のような呼びかけを行い、12月10日に説明会を開催。11団体が参加し支援組織結成に向けて一歩を踏み出した。

<呼びかけ文>

「子どもたちと地域の未来を考える花と緑のまちづくり全国首長会」を 支援する組織に参加をしませんか

「子どもたちと地域の未来を考える花と緑のまちづくり全国首長会(以下首長会)」が、この11月14日に発足総会を開かれます。

全国首長会は、別紙のような趣旨に賛同した全国の首長が会員となっていますが、北海道から沖縄まで100を超える自治体の首長が会員となっており、人口にして約1500万人の自治体が参加しています。

花と緑のまちづくりの推進の必要性は不可欠であり自治体だけでなく市民、ボランティア団体、企業などが一緒になって行われていますが、自治体やボランティア団体などに情報提供や技術指導・提言などで支援する組織を発足させたいと考えています。

新組織は、まちづくりを進める団体や花と緑を普及させることを目的とした全国団体で構成と考えています。当面は下記団体に呼び掛けていますが、随時、拡大していく予定です。

おもな骨子は下記のとおりです。

なお、今回の呼びかけは当会・NPOガーデンを考える会ですが、当会は全国首長会が発足に至る当初の段階、2018年3月より側面から支援してきた経緯があり、呼びかけをさせていただきました。

支援する新組織と一緒に全国首長会、市民を支えていただければ幸いです。

なお12月には趣旨の説明会を開催する予定です。

記

1. 名称：「花と緑の美しいまちづくり活動支援新組織(仮)」
2. 呼びかけ団体：(公財)都市緑化機構、(一社)日本花普及センター、(公社)日本家庭園芸普及協会、(公財)日本花の会、(一社)日本ハンギングバスケット協会、(一社)日本造園組合連合会、(一社)日本エクステリア建設業協会、(一社)、ジャパンガーデンデザイナーズ協会、家庭園芸肥料・用土協議会、ほか
3. 入会金・年会費：なし(規約参照)
4. 活動内容：自治体、市民等に情報提供、提言など(事業計画参照)
5. 全国首長会と当会の関係(別紙)



子どもたちと地域の未来を考える 花と緑のまちづくり

6. 問合せ先：活動支援新組織事務局（ガーデンを考える会）

※規約、事業計画は誌面の都合略

<全国首長会とガーデン会の関係>

2018年早春、桂川孝裕亀岡市長と、桂川市長と花飾りで長い親交のある伊藤孝巳氏（当時、伊藤商事社長、ガーデンを考える会会員）による「全国の市町村長が連携をとって花と緑のまちづくりを進めていってはどうか、この運動のポイントは花と緑に関わるプロフェッショナル集団が支援をしていくこと」という話から、本プロジェクトは始まりました。

その話を受けて、プロ集団であるガーデンを考える会は全国首長会を支援していくことにし、2月より開始した首長会の発起人市長依頼活動の事務局を、ガーデンを考える会が引き受けました。

桂川市長とともに発起人市長を募集しながら、2018年9月9日に福岡市にある九州大学箱崎キャンパスにおいて、ガーデンを考える会による「花と緑のまちづくりフォーラム」を開催。そのフォーラムで桂川市長は「花と緑のまちづくり・福岡宣言」を発表しました（当時の発起人は亀岡市、盛岡市、三島市、見附市の4市長）。

福岡宣言を受けてさらに発起人首長を依頼し、2019年6月5日開催の松本市における全国首長会発起人会（前記に加え横浜市、鴻巣市、小松市、宇部市、淡路市の会員9市長）開催へとつながりました。

このように、立ち上げから首長会発起人事務局機能として支援してきました。首長会発起人事務局は2019年3月に亀岡市役所内にできて移行していますが、その後も当会は連絡を取りながら支援を続けています。

このように当初から支援をしてきた経緯から、今回の支援新組織設立にあたり、呼びかけをさせていただいています。